

平成十八年度
今治明德短大

歩き遍路体験学習レポートから

①

体験学習を終えて

上原 大典
(幼児教育)

歩き遍路体験を終えて、まずとても疲れました。しかし、自分の足で歩いてみて自分なりに学び得たものがあつたと思います。

今回学んだことの一つに「お接待のありがたみ」があります。地域の人々からお茶やお菓子のお接待を受け、旅館の方にも親切にしてくださいました。普段何気なく飲んでいるお茶が疲れていると

きは嬉しいし、歩いているとき「がんばって」と声を掛けられ励みになりました。自分がお接待を受けてみて「ありがたみ」

自分の将来答え探す

がよく分かりました。だから、今度の「足浴のお接待実習」は心を込めてやりたいと思いました。

歩き遍路の大きさも分かりました。宇和(愛媛県西予市)から大洲に抜ける鳥坂峠も車で走ればたいしたことはないけど、遍路道を歩いて通る

そ学びとれるものも大きいということに気づきました。

歩きながら考えていたことがあります。最近、先生から「自分が将来どんな保育士になるか」と問われ、その答えを探していました。



下坂場峠を越える明短生一行

僕は保育士の資格を取るため、この学校で学んでいます。卒業後は保育園などに就職するつもりでしたが、今は児童養護施設や学童保育という別の道も考えています。テレビゲームばかりしている子供たちに、自然の素晴らしさや地域の伝統文化を伝える—そんな保育士になりたいと思います。田んぼを借りてお米づくりを体験したり、夏はキャンプをしたり。歩き遍路もその一つです。昔から続いている伝統文化にふれ、地域の人たちとふれ、自然と触れ合う—これほどいい体験学習は

ないと感じたからです。一つ、後悔することがあります。情けないことに初日熱を出し、途中から伴走車に乗せてもらいました。先達の役割も果たせず、悔しい思いが残りました。

五日間歩いて苦しいこともあつたけれど、地域の文化や人々と触れ合うことができ、先輩や仲間との交流も図れたことは大きな収穫でした。今回はまだ漠然とした答えしか見つかっていないのですが、来年も参加して最後まで自分の足で歩き、答えの続きを探したいと思います。